



# 三潑保育園 園だより

June 2022



6月というと、一般的には衣替えの季節ですが、5月中旬には真夏日を記録するほど暑い日が続き、子ども達は一足早く半袖へと衣替えを完了。これからさらに気温・湿度が上がり汗ばむ季節がやってきます。本格的な夏に備えて、子どもの服装や健康状態にも配慮していきたいと思います。

先月は自然物との出会いが沢山あった1か月だったようです。

園外に散歩に出掛けては、お土産話が盛り沢山。それだけに留まらず「うめの実いっぱい採ってきたよ」と収穫物のお土産も。園長先生のお寺や近くのお宮だけでなく、今年は新たに第3駐車場でも収穫してきたようです。さて、このうめはというと、ゆり組は「カリカリ梅」に、すみれ組は「梅干し」へと昨年、一昨年に加えバージョンアップ。そして、うめ組は初チャレンジですが、3クラスとも「梅シロップ」作りも行うとのこと。収穫したうめの香りは「ももみたいな匂いがする」「ぶどうみたいな甘い匂い」とそれぞれ感じ方が異なり、お友達の話聞いてみては再確認したり、拡大鏡で観察したりと興味あふれる活動となっているようです。おいしくできるかはこれからのお楽しみですが、出来上がるまでの経過も楽しみながら観察して行ってほしいと思います。

また、沢山の生き物との出会いもありました。大人気のダンゴムシやテントウムシを見つけては、大事そうに手の平に乗せ観察。「ダンゴムシが丸くなって動かなくなった」と心配そうにじっと見つめたり「ビックリしたんじゃない」と考えたり、子ども達は楽しそうに会話をしています。

先日、砂遊び中にばら組の子ども達と見つけたあおむしをカップに入れていたんですが、目を離していた隙に風でひっくり返り逃げられてしまいました。「あおむしさん、いなくなっちゃった」と話すと「お散歩行ったのかな」「お腹空いていたのかな」「また会いたいね」など一つの出会いかからたくさんの会話が生まれたことに驚きました。次の日、図鑑と一緒に見ながら「昨日のあおむしさん、モンシロチョウのあおむしさんだったね」と話すと「ちょうちょになったら会いに来てくれるかな」と再び会えることを楽しみにしている様子でした。あおむしと触れ合えたのはほんの少しの時間だけでしたが、子ども達にとっては大事な出会いであったことに気付いたひと時でした。

子ども達の会話からは私達大人が思いつかないような豊かな発想が生まれてきます。子ども達のつぶやき、一瞬の子ども達の表現を大切に、活動に繋げていきたいと思います。

名頭園 弥生

## クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~

### たんぽぽ組

- ・身体を清潔に保ち、気持ちよく過ごす。
- ・保育者に見守られながら、様々のものに触れ、感触を味わう。

### もも組

- ・梅雨時期の身近な自然に触れながら、健康に過ごす。
- ・保育者に見守られながら、自分の身の回りのことをやってみようとする意欲を持つ。

### ばら組

- ・保育者や友達と一緒に砂や水などの自然物に触れて遊ぶ楽しさを味わう。
- ・友達と一緒に遊ぶ中で、興味・関心を共有する楽しさを知る。

### うめ組

- ・梅雨の自然を見たり触れたりして興味・関心を持つ。
- ・自分の思いや考えを言葉にして伝えながら気持ち通じ合う喜びを感じたり相手の言葉に耳を傾けようとする。

### すみれ組

- ・飼育や栽培を通して生き物に触れ、興味・関心を持つ。
- ・雨の日も戸外に出て、雨水に触れたり観察するなどし、雨の日ならではの遊びを楽しむ。

### ゆり組

- ・梅雨の自然を見つけて、興味をもって観察したり詳しく知ろうとしたりする。
- ・暑さや湿度に合わせて衣服の調節をしたり、水分補給をしたりしながら自分の健康管理への意欲を高める。



## 6月の行事予定

- 1日(水) 衣替え
- 6日(月) お弁当の日
- 13日(月) 避難訓練
- 22日(水) プール開き
- 27日(月) お誕生会
- 27日(月) ~30日(木) 身体測定



## 6月4日は虫歯予防デー

6月4日を「む・し」と読めることから始まったもので、6月4日~10日までの一週間を「歯と口の健康週間」といいます。先日、保育園でも歯科検診が行われました。虫歯予防のためには、歯磨きの習慣が大切です。虫歯菌が糖を餌にして酸を発生させて歯を溶かしていくのが虫歯です。特に、乳歯は虫歯になりやすく、進行が早いといわれています。子ども達が意識して、食後・就寝前に歯磨きの習慣が身につくようにしていきたいですね。

# 感じるところから始まる

日々、子ども達と過ごしていると、何気ない日常の中で子どもってこんなことを感じているんだと思うことがあります。

例えば、おやつ時間にこんな出来事がありました。手作りケーキを見て「おいしそう」と座って待つだけでなく「なんかいい匂いがする」と鼻を近づけて匂いを感じ、自分が食べたことのない匂いだとなると、表面に見える紫色の部分を見つけ観察し、「いちごじゃない」と気づき、これなんだ？と疑問に思う。実際はブルーベリージャム入りのケーキだったわけですが、おやつひとつでも子どもは色々な「感じる」を味わい、「いちごではない」という子どもなりの結論を出したわけです。小さいながらも「感じる」から「学び」が始まったのだと思います。

最近では、保育室や廊下に子どもの気づきや興味・関心が目で見えるように掲示されています。子ども達目線の考えや感じたこと、気づきから活動が展開したこと、保育者が気付いたことなど様々なことが書き記してあります。他にも、子どものつぶやきから生まれた制作物の展示してありますね。

登園・降園の時間に、子どもと一緒に見られているご家庭も多く、「今日はこんなことしたんだね」などお話をしている様子を見ると、なんだか温かい気持ちになります。そして、何より子ども達がうれしそうな顔をしているのが印象的です。

日常の中のほんの一部、子どもの「感じる」から広がった活動が少しずつ展開され、子ども達一人一人のたくさんの「学び」へと繋がっています。その経験が心に残り、また次の「学び」へと発展していくことでしょう。私達、保育者は小さな子ども達の「感じる」というはじまりの段階を大事にしていきたいと思います。

6月に入ると、梅雨時期に入り、雨が降ったり止んだりとどんよりした天気が続きます。子ども達はというと、雨上がりの園庭が大好きです。水たまりができた泥んこ遊びができたたり、カタツムリに会えたりと楽しいことが盛り沢山です。きっとたくさんの「感じる」を味わうことでしょう。泥に触れ、気持ちいい、悪いという感触。これから子ども達の色々な感情が揺さぶられることを楽しみに活動していきたいと思います。

